

■第1回 専門部会議事録

日時：令和3年5月27日（木）19時～20時30分

場所：オンライン会議

出席者：榎井部会長、高谷副部会長、神野委員、森委員、イラ委員、ジャ委員、金委員、
和田委員、織田委員、勝部委員、船越委員、花山委員、多田委員、金子委員、
吉川アドバイザー、比嘉アドバイザー

事務局：豊中市人権政策課 堀山人権政策課参事兼課長、片岡課長補佐、野邊
（公財）とよなか国際交流協会 山野上事務局長、山本事務局次長、山根事業主任

オブザーバー：（株）シティコード研究所

次第： 議題

- （1）部会員・アドバイザー等紹介
- （2）専門部会について
- （3）調査・研究の概要について
- （4）アンケート調査及びヒアリング調査について
- （5）その他

会議の経過

○配布資料の確認

○委員紹介

【部会長】

- ・非常に多様な方々にご参集いただきこの部会でどのような成果を出していけるか大変期待しているのでよろしくお願ひしたい。
- ・では次第に沿って進めたい。事務局より専門部会について説明を。

○事務局より専門部会について資料説明

【部会長】

- ・説明のあった内容に対して何か質問や意見はあるだろうか。
- ・まだ大きな目的に関する説明であったので、引き続き調査・研究の概要について説明を。

○事務局より調査・研究の概要について資料説明

【部会長】

- ・概要を聞いたところでは結構タイトだと感じた。
- ・何か質問や意見などはあるだろうか。

【委員】

- ・大変立派な概要だと感じた、十分な内容だと思う。
- ・今後アンケートとヒアリングへの協力ということで、われわれの団体は小規模だが会員が直接対象者になると思うので、できるだけ協力させていただくつもりだ。

【委員】

- ・コロナの影響で毎日社協の窓口には外国人が最低でも3組くらいはやってくる状況だ。留学生や外国にルーツのある親子など、この1年ですっかり外国人の生活そのものにふれる実態が出てきている。
- ・特に心配なのは技能実習生が生活できず、かつ帰れないので生活困窮している。そうした人はここにカウントされているのかどうかや、戻れない状態にある人たちなどはアンケートで取るのか、ヒアリングで直接関わりのある人たちをピックアップしてつないでいくのか、その辺りの具体的なことは考えているのか。結構名前がつながっている人がいるので、われわれのつながりのなかからお願いするイメージなのか、それともアンケートを直接送ってしまう形になるのか。

【事務局】

- ・この後アンケートとインタビューの詳細を説明するが、アンケートはあくまでも地域の現状、概況を把握するためのものとしてのイメージでいる。
- ・それだけでは指摘の通り取りこぼす部分やアンケートでは見えない部分があると思うので、そのあたりは丁寧にインタビューで具体的な話を拾っていきたいと思っている。
- ・どんなところから意見を聞くべきかなど、ぜひここで意見をいただければと思う。また、つながっている人のなかで紹介や協力していただければお願いしたい。

【委員】

- ・中西部はベトナムが多く、きっと技能実習生を受け入れている工場や寮なども沢山あるのではないかと思う。
- ・今日は青年会議所の方もこられていると思うが、会員のなかで外国人労働者の受け入れをしているところもあるのではないかと思うので紹介をいただければと思うのでよろしくお願いしたい。

【委員】

- ・ベトナムの人と付き合いがあるが今の話で気が付いたのは、ベトナムのグループはスポーツからカラオケなどベトナムの人たちで集まり孤独にならないようにという趣旨ではじまったが、そこへ集まってくるのは留学生や技能実習生、エンジニアと概ねこの3者だが、指摘にあったような層はなかなか見えてこない。やはり集まらない人は集まってこないというか、仕事等でも困っていない人が集まっており、見えにくいのはこうした場に参加していない人なので気がかりだ。
- ・来ている人のなかで友達などに困っている人がいないか聞き込みをしているが、やはりアンケートやインタビューを行う際には、そうした見えない人をどう拾い上げていくかが課題だと思う。

【部会長】

- ・重要なポイントだ。コミュニティの話になると思うが、集まれる人は余裕のある人であり、本当に困っている人はなかなか見えない。そのあたり、みなさんと知恵を絞ってやっていきたい。

【委員】

- ・市役所の外国人相談窓口の相談員だが、いろんな人に長い間接してきた。この1年間、生活に困った人の相談が大分増えた。
- ・また、長い付き合いのある人でも、日本人と結婚してずっと暮らしている人など、意外とそういう所に情報が行き渡っていないのではないかと感じるので気がかりだ。
- ・そのあたりの聞き取りで役立てればと思う。

【部会長】

- ・では時間も限られているので次の案件、アンケート調査及びヒアリング調査について説明を。

○事務局よりアンケート調査及びヒアリング調査について資料説明

【会長】

- ・2,000人に対するアンケートということで項目等の説明をいただいた。まず、今日言い忘れたことなどは後日事務局で対応していただければと思うので、ひとまず説明を聞き感じた部分や日頃の活動で気になっていることなどを共有していただければと思う。

【委員】

- ・在住資格や誰と住んでいるのか、就労状況などが分かれば生活に困っている人などが分かってくるのではないかと。アンケートをすることでどういうタイプの人困っているのかを割り出せたらいいのではないかと。
- ・建築業をしているが、5年ほど前から実際にベトナム人の技能実習生を雇用していたこともある。周囲の同業者でも実際に雇用しているところや、豊中市のベトナム人の技能実習生受け入れ機関にも知人がいるため、ベトナム人については身近に感じている。
- ・ベトナム人は既に日本に多く居るため、ベトナムから日本に来た時点でベトナム人コミュニティに所属している。おそらくベトナムに住んでいた頃の田舎が同じ人や20代若い子はSNSでつながっており大阪でしか働いたことがないのに東京に友達があり東京へ遊びに行ったりしている。そうしたコミュニティが出来ているからベトナムからやって来ても心の支えになっているのではないかと。
- ・ただ、コミュニティが出来るのはいいが、コミュニティが良く働いている場合はいいが、悪い情報も入ってくることもあり、こうした営利目的でやっていない国際交流センターのようなところから他のいろんなコミュニティと同じように最初にアプローチしてあげることで、困ったことがあればここに相談してくださいと案内できていけば、何かあっても相談にやってきてくれるのではないかと。
- ・また、国際交流センターのようなところにつながっていなければ、何か悪いコミュニティがどんどん大きくなってきた場合、みんなが仲良く日本人も外国人もまちで暮らしていく

というのがギクシャクしてくる可能性もあるので、早いうちからこちらから積極的に働きかけていくのが重要ではないか。

【部会長】

- ・聞き取り先もいくつかあげていただけた。

【アドバイザー】

- ・今話をうかがいわれわれの団体が取り組んでいるよりいろいろなことをされていると感じた。今回のアンケートとヒアリング調査について、特別永住者は多言語情報の発信検証もあり対象から省くとのことだが、だとするならばアンケートの項目の情報収集あたりで、実際に支援センターが出した情報、どんな情報が一番役に立ったか、どんな情報を求めているかといった項目があった方が、検証という意味ではよいのではないか。

【委員】

- ・今回うちでは失業などに関する相談を多く受けたが、彼らにとっては自治単位というのはあまりイメージしていないようで、北陸などで働いてそっちで仕事がなくなったので滋賀や大阪に仕事があるという話を聞いたりして全国展開で動いている人もいる。
- ・結構われわれが思っているような地域のコミュニティとは全然違うレベルで動いている人がかなりおり、コロナによって日本人以上に転出や転入があったのではないかと感じる。
- ・言語の問題では、情報がどれだけ役立っているかも重要だが、日常の通訳の問題について、オフィシャルな場では市役所で通訳を派遣してもらってもいいかもしれないが日々の所ではなかなか難しく、会社の上司が何か言っているが分からないので電話で聞いて教えてもらえないかという相談や、多分子どもたちがヤングケアラーといわれるように通訳の部分で家族を支えているケースもかなりあるのではないか。日本語に対して読み書きの支援に関して、いつも誰に助けられているのかを訪ねる部分があれば、身近な家族が支援しているのかなど把握したいと感じる。
- ・現場ではポケトークを駆使してすべての貸付窓口が多言語案内を用意し見せながら行うが、まったくといっていいほど喋ることはできても読み書きはできないケースがあり、思っている以上に厳しい人たちが生活していると実感するので、そうした実態が浮き彫りになればと思う。

【部会長】

- ・アンケート対象は18歳以上となっているので、子どもが通訳に入っているとか、ヤングケアラー問題について工夫ができればいいと思う、貴重な意見だ。
- ・また、コミュニティや地域の意識が全然違うというのも非常に分かる気がする。全国を移動している人はかなりいるのではないか。発信の仕方や自治体としての対応も問われてくる。

【委員】

- ・そうすると全国レベルでの調査の必要性や都道府県レベルでのバックアップ体制がなければと思う。市町村での身近なところでしっかりやることを今回明らかにしつつ、全体の部分へ提言できることが少しでもあれば更によいのではないだろうか。

【委員】

- ・アンケート項目で特にコロナについて、不安なことはありますかという項目で、こういうのは今回の調査的にはデザインとして違うと思うが、日本人と比較するとどうなるのか興味がある。日本人とくらべて収入や不安はどういうことがあるかなど、違いが分かれば外国人が困っている部分をもっとよく分かるのではないかと感じた。

【部会長】

- ・日本人へのそうした調査はしているのか。

【事務局】

- ・今のところ国際交流センターで行っているものはない。
- ・市としての調査もない。

【部会長】

- ・比較するにはどんな調査を行えばいいだろうか。

【委員】

- ・日本人に同じような調査をすれば比較できるのではないかと。ただ、今回の調査デザインとしてはそうでないと思うが。

【委員】

- ・うちに来た人に調査をすると全員減収しているだろうし、サンプルの取り方が無作為抽出でなければ偏ってしまう部分もあるだろう。
- ・比較して外国人が本当に特に大変なのかは分かる方がいいとは思っているので検討はいるだろう。

【部会長】

- ・アンケートの限界もあるので、ヒアリングもふくめてそのあたりを少しはできればと思うが。

【委員】

- ・うちはインドネシアの子どもや国際結婚家族の団体でほとんど永住者だが、この調査は難しいのではないと思う。解答方法についてインターネットで回答できなければ国際交流センターで回答とあるが、もし通訳等ができなければインドネシア語版を私が作成し印刷し、蛍池にインドネシアの店がありいろいろな人が来るのでそこで調査をお願いしてはどうか。

【部会長】

- ・どこへ行けばインドネシアの人の協力が得られるかという貴重な意見だ。

【委員】

- ・中国人グループの代表としてSNSなどで中国人とつながっている。グループには約250人前後集まっているが、全員が豊中市在住ではない。グループ参加者はとても困っているというほどではない。
- ・何人かは国際交流センターへ相談にきた際にグループへの参加を呼び掛けたが断られた。本当に困っている人はこんな大人数のグループには参加しようとしないうだ。アンケートやヒアリングをする際にはグループに参加していない人に聞く方がいいだろう。

【部会長】

- ・先ほども同様の指摘があったので、インタビュー先などをどう見つけるかなどについてもぜひ知恵を出していければと思う・

【委員】

- ・学校や子育ての部分でいうと、アンケート対象が18歳以上とのことで子どもに直接聞けないので、保護者から見た子どもの困り感などになると思う。日本に18歳以下の子どもがいる人だけ回答してくださいということだが、コロナ禍でこの間の出入国が結構あったと思うのでその場合どうするのか。アンケートで取れない部分はヒアリングで細かく聞き取るしかないのではないかと感じた。
- ・市教委としては、人権教育係のなかに渡日相談室というものがあり、外国籍の子どもが転入手続きに来た際には相談室で保護者に言葉や学校生活について聞き取りをしており、相談員は色々な子どもや保護者と出会っているのですこへのインタビュー調査の協力ができれば子どもの情報も集まってくるのではないかと。
- ・外国人住民については、市内の夜間学級には外国人生徒が結構いるので、そこへ協力をお願いすれば生徒からの協力も得られるのではないかと。
- ・学校へのアンケート調査は、学校長を通じて行うのか、教育委員会で集約しているものを提供するのか、これから検討したいと思う。

【部会長】

- ・もし学校等の協力も得られれば非常に良いデータが得られるのではないかとと思う。

【委員】

- ・市外協では昨年度、休校中に困ったことについて各学校にアンケートを取っている。全校から帰って来たわけではないが、学校から毎日のように大量にメール配信があったがそれを理解できないといった言葉の面の問題が出ている。
- ・学校としては保護者が理解できているか不安な場合は個別に電話するなど対応してきている。課題としては、子どもたちが学習できているか不安で先生が各々対応したという現状がある。
- ・メールも市教委で翻訳してくれるものもあるが、いくつかは子どもが翻訳し保護者に伝えていたようだ。言葉で躓いている、内容への理解ができないなど、去年の休校によって見えてきた。そのあたりも拾っていければと思う。

【部会長】

- ・先ほどの子どもが18歳以下で日本にいるという条件では行ったり来たりしているケースや、学校からのお知らせ、子どもが通訳として駆り出されているといった指摘だ。

【副部会長】

- ・インターネットだけでは非常に回答率が低くなると思われるのでなんとかできないかと感じる。アンケートは外国籍だけに限っていると思うが、インタビューであれば日本国籍で外国ルーツの若者もふくめられるのではないかとと思う。
- ・あとは文言等で細かい点があるので個別に事務局に連絡しておきたい。

【委員】

- ・アンケート発送時に依頼状だけでなく、情報発信としてこうしたものがあると足を運んでもらえるようにすればインタビューにつなげることができるのではないかと。
- ・インタビュー調査だが、暮らしを守る総合相談会が6月に国際交流協会と共催で行うため、今回は急だがインタビュー調査などもこうした相談会なども活用できれば直接実施できるのではないかと。
- ・先ほどの日本人との比較といった部分も人数的には少ないがこういう場を活用していただければと思う。
- ・地域共生課で外国人と福祉の連携プロジェクトとして、以前アンケートを外国人40名に実施したが、外国人も日本人とつながりたいがどうやってつながればいいのか分からないといった声があったため、社協とも協力しつつ地域住民と外国人が交流できる機会を今後つくっていかねばと思う。
- ・こうした機会のなかで、今回のインタビュー調査なども連携して進められれば今回の調査研究も進んでいくのではないかと。

【アドバイザー】

- ・今回アンケート2,000人とのことで、豊中市は外国人住民6,000人ほどで特別永住者や子どもを除くとのことであれば2人に1人くらいにアンケートを配布する大規模調査になるので貴重な機会だ。
- ・先ほどから役所やさまざまな機関、コミュニティなどにつながっていない外国人にどうつながるかという課題が出ているが、アンケートは強制的に送付することになるのでそういった人にもつながる機会になればと思う。アンケート回答者にはできればインタビューなどにも答えてほしいので、調査を通じたアウトリーチの機会にもなればいいと思う。
- ・そうすると、最初の依頼状・案内状のデザインや文言にも気を配る必要があると思う。

【委員】

- ・2,000人に発送で回答率が20%前後とした場合、約400人の回答を予想しているのか。

【事務局】

- ・概ねそれくらいになるのではと思っている。

【委員】

- ・では地域別や属性別に集計するのは数が少なくて難しいのではないかと感じた。

【部会長】

- ・では時間も超過しているのでその他案件について事務局より説明を。

○事務局より今後のスケジュールについて案内

【部会長】

- ・次回が6月で調査票が確定していく予定となりタイトなスケジュールだがよろしくお願ひしたい。まだまだ言い足りないなど意見があれば事務局まで連絡を。
- ・では本日は以上としたい。

(以上)